

(様式1)

平成30年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 072	提案機関名 畜産技術センター
要望問題名 群で肥育する場合の負け牛対策	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 群で肥育している場合、同一牛房内で負け気味の肥育牛がいても、場所の制約があつて個別飼いきれない場合がある。また、間口の狭い牛房で飼槽幅が狭いと、肥育牛同士の力関係に左右されて食い負ける肥育牛が出てくる。設備投資を最小限に抑えて、肥育牛が満遍なく給与飼料を摂取できる手法があれば肥育成績の向上が期待できる。そこで、肥育牛を群飼する場合での負ける牛対策の検討をお願いする。	
解決希望年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	<input type="checkbox"/> ①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター <input type="checkbox"/> ③水産技術センター <input type="checkbox"/> ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	企画指導部企画研究課
対応区分	<input type="checkbox"/> ①実施 <input type="checkbox"/> ②実施中 <input type="checkbox"/> ③継続検討 <input type="checkbox"/> ④実施済 <input type="checkbox"/> ⑤調査指導対応 <input checked="" type="checkbox"/> ⑥現地対応 <input type="checkbox"/> ⑦実施不可		
試験研究課題名	(①、②、④の場合)		
対応の内容等	当所でも平成25～26年に群飼育の試験を行ったところ、確かにご指摘のとおり同一牛房内で負け気味の肥育牛が出来ることは確認しています。その際には、粗飼料（ワラ）を裁断し濃厚飼料と混合し、飽食とすることで、なるべく喰い負けないような工夫をいたしました。北海道の報告では、1頭当たりの飼槽幅を確保することで肥育成績が改善されるとあります。文献では、1頭当たりの飼槽幅の基準は、90cmあればよいと記載されています。十分な飼槽幅を確保できない場合は、給餌時にスタンションなどで保定する、TMRにより飽食にする、多回給餌する等が考えられます。いずれにせよ、個別の経営に対して改善策を工夫する必要があると考えられ、まず、調査をお願いしたいと思います。その際にはご協力いたします。		
解決予定年限	<input type="checkbox"/> ①1年以内 <input type="checkbox"/> ②2～3年以内 <input type="checkbox"/> ③4～5年以内 <input type="checkbox"/> ④5～10年以内		
備考	高品質牛肉の生産技術の開発（2）食品製造残さの給与が牛肉生産に及ぼす影響 成果資料 北海道(H14) 1頭当たりの飼槽幅確保による乳用種去勢牛の肥育成績向上 (http://www.naro.go.jp/org/harc/seika/h14/ho164.html) ビーフキャトル、A.L. ニューマン、1979:593		